

安全データシート(SDS)

作成日 : 2016年12月01日

改訂日 : 2022年04月01日

1. 製品及び会社情報

製品

製品名 ロードプラスターK
グレード 標準、寒冷地用

会社情報

会社名 シンレキ工業株式会社
住所 〒144-0052 東京都大田区蒲田5丁目38番1号
緊急連絡先 中央研究所
電話番号 044-366-1617
FAX番号 044-366-1618

推奨用途及び使用上の制限

- ・舗装の維持、修繕のためのパッチング材として使用。(業務用)

2. 危険有害性の要約

急性毒性(経口)	区分に該当しない	区分に該当しない
急性毒性(経皮)	区分に該当しない	区分に該当しない
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	分類できない	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	区分2	区分2
眼に対する重篤な損傷・刺激性	区分2A	区分2A
呼吸器感作性	分類できない	分類できない
皮膚感作性	分類できない	分類できない
生殖細胞変位原性	区分に該当しない	区分2
発がん性	区分に該当しない	区分2
生殖毒性	分類できない	分類できない
特定標的臓器・全身毒性 - 単回暴露	分類できない	区分3(気道刺激性)
特定標的臓器・全身毒性 - 反復暴露	分類できない	区分1(呼吸器系)
誤えん有害性	区分に該当しない	区分に該当しない
※記載が無いものは分類対象外又は分類できない。		

GHS分類

常温時(固体状態)

加熱溶融時(液体状態)

ラベル要素

常温時(固体状態)

絵表示又はシンボル



注意喚起語

警告

危険有害性情報

- ・皮膚刺激
- ・強い眼刺激性

ラベル要素

加熱溶融時（液体状態）

絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険

危険有害性情報

- ・皮膚刺激
- ・呼吸器への刺激のおそれ又は、眠気又はめまいのおそれ
- ・強い眼刺激
- ・遺伝性疾患のおそれの疑い
- ・発がんのおそれの疑い
- ・長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害（呼吸器系）

注意書き

〔予防策〕

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・すべての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。
- ・取扱後はよく手を洗うこと。
- ・指定された個人用保護具（保護メガネ、保護手袋、保護衣）を着用すること。

〔対応〕

- ・取り扱った後、手を洗うこと。
- ・汚染された衣服を脱ぎ、再利用する場合には洗濯すること。
- ・皮膚に付着した場合：皮膚を多量の水と石鹼で洗うこと。
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・皮膚または眼刺激が生じた場合は、医師の診断／手当を受けること。

〔保管〕

- ・水のかからない場所に保管すること。

〔廃棄〕

- ・国／都道府県／市町村の法令に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一化学物質・混合物の区別	・混合物	
化学名又は一般名	・全天候型常温混合物	
化学式	・特定できない	
成分及び含有量	・① 石油アスファルト（鉱油）	3.5 ～ 5.5%
	・② 植物脂肪酸	2.8 ～ 4.5%

	・③ アルカリ性添加剤	2.1 ~ 3.4%
	・④ セルロース繊維	1%未満
	・⑤ 骨材	93%以上
CAS 番号	・① 8052 - 42 - 4 ② 非公開 ③非公開 ④ 非公開 ⑤ 天産物	
官報公示整理番号 (化審法)	・① (9) - 1720 ② 既存 ③ 既存 ④ 既存	
(安衛法)	・① (12) - 189 ② 既存 ③ 既存 ④ 既存	

4. 応急措置

吸入した場合

- ・新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受ける。

皮膚に付着した場合

- ・付着した身体部位を水で洗浄する。また、汚染された衣類を直ちに脱ぎ、皮膚を多量の水と石鹼水で洗う。皮膚の刺激が持続する場合は、医師の診断／手当てを受ける。

眼に入った場合

- ・水で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合は、医師の診断／手当てを受ける。

眼球を傷つける可能性があるのでこすらない。

飲み込んだ場合

- ・無理に吐かせないで、速やかに医師の診断／手当てを受ける。口の中が汚染されている場合は、水で十分に洗うこと。気道に入ったと思われるときは、直ちに医師の診断／手当てを受ける。

最も重要な徴候及び症状

- ・現在のところ有用な情報なし。

応急措置をする者の保護

- ・現在のところ有用な情報なし。

医師に対する特別な注意事項

- ・現在のところ有用な情報なし。

5. 火災時の措置

消火剤

- ・粉末、二酸化炭素、泡、乾燥砂が有効である。

使ってはならない消火剤

- ・棒状水の使用は火災を拡大し、危険な場合がある。

特有の危険有害性

- ・燃焼の際は、硫化水素、一酸化炭素等の有毒ガス、刺激性のガス／ヒュームを生成するおそれがある。

特有の消火方法

- ・火元の燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
- ・周囲の設備に散水し、冷却する。

消火を行う者の保護

- ・消火作業の際は、風上から行い必ず保護具を着用する。
- ・消火作業を行う者は、空気呼吸器等の保護具を着用し、酸素欠乏及び有害ガスから身を守ること。

6. 漏出時の措置

- ・本製品は粒状物であるため、流出することはないが、飛散する場合がある。

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・作業の際には、保護具を着用する。

環境に対する注意事項

- ・水分と接触すると固まるため、河川等に排出し、環境へ影響を及ぼさないように注意すること。
- ・排水溝などの閉鎖空間への流出を防ぐ。

回収、中和

- ・適当な容器及び包装等で回収する。

二次災害の防止策

- ・漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
- ・周囲の着火源を取り除き、消火用器材を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ・水分と接触すると固まるため、水との接触を避ける。

局所排気・全体換気

- ・「8. 暴露防止及び保護措置」を参照。

注意事項

- ・当社製品であるエッジスプレー及びアスファルト乳剤を使用する際は、熱、火花、炎、高温体等との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発生させないこと。

接触回避

- ・水との接触を避けること。
- ・「10. 安定性及び反応性」を参照。

安全取扱い注意事項

- ・眼、皮膚への接触を避けるため適切な保護具（保護手袋等）を着用すること。
- ・接触、吸入または飲み込まないこと。
- ・眼に入れないこと。
- ・屋内で取り扱う場合は換気に注意すること。
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・製品の袋が破れるような乱暴な取扱いはしないこと。

保管

技術的対策

- ・水との接触を避けること。

混触禁止物質

- ・「7. 取扱い及び保管上の注意」及び「10. 安定性及び反応性」を参照。

保管条件

- ・雨水や雪、直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に容器を密閉して保管すること。
- ・水回りや湿度の高いところに置くと、製品の袋が吸湿し、内容物が固まるおそれがある。

容器包装材料

- ・製品使用容器に準ずる。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

- ・発生源の密閉、又は排気装置を設ける。
- ・取扱場所の近辺に、洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。

管理濃度

- ・製品に対する有用な情報なし。
- ・1 ppm (硫化水素として) (鉍油の成分情報) ^{a)}
- ・3.0 g/m³ (アルカリ性添加材の成分情報)

許容濃度

- ・製品に対する有用な情報なし。
- ・日本産業衛生学会
 - 5 ppm (硫化水素として) (鉍油の成分情報) ^{a)}
 - 50 ppm (一酸化炭素として) (鉍油の成分情報) ^{a)}
 - 1 mg/m³ (吸引性粉じん) (アルカリ性添加材の成分情報) ^{a)}
- ・米国産業衛生専門家会議 (ACGIH) TWA
 - 0.5 mg/m³
 - 1 ppm (硫化水素として) (鉍油の成分情報) ^{a)}
 - 25 ppm (一酸化炭素として) (鉍油の成分情報) ^{a)}
 - STEL 5 ppm (硫化水素として) (鉍油の成分情報) ^{a)}

保護具

呼吸器の保護具

- ・状況に応じて、防毒マスク (有機ガス用) 等を着用する。

手の保護具

- ・状況に応じて、耐油性型の保護手袋等を着用する。

眼の保護具

- ・状況に応じて、保護眼鏡等を着用する。

皮膚及び身体の保護具

- ・状況に応じて、耐油性型の長袖作業着等を着用する。

衛生対策

- ・取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态、形状、色など	黒色の粒状
臭い	特異臭
pH	データなし
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	214 ~ 218 °C (バインダとして)
燃焼又は爆発範囲の上限・下限	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重 (相対密度)	データなし
溶解度	水に不溶、バインダは有機溶剤に可溶
n - オクタノール/水分配係数	データなし

自然発火温度	データなし
分解温度	データなし

1 0. 安定性及び反応性

安定性

- ・水分と反応して安定固化する。

危険有害反応性

- ・強酸化剤との接触を避ける。

避けるべき条件

- ・高温多湿な場所での保管。水との接触。

混触危険物質

- ・水（使用前に水分と接触すると固まってしまい、製品として使用不可能となる）

危険有害な分解生成物

- ・燃焼により煙、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成する。

1 1. 有害性情報

急性毒性

- ・製品に対する有用な情報なし
- ・経口 ラット LD₅₀ 5000 mg/kg 以上（鉱油の成分情報）^{a)}
- ・経皮 ウサギ LD₅₀ 2000 mg/kg 以上（鉱油の成分情報）^{a)}

皮膚腐食性・刺激性

- ・製品に対する有用な情報なし
- ・ドレイズテストの結果、刺激性なし。（鉱油の成分情報）^{a)}

眼に対する重篤な損傷・刺激性

- ・職業ばく露において、本物質の蒸気による結膜炎の報告や、眼刺激性が複数報告されていることから区分2とした（CICAD 59 (2005)、DFGOT vol.17 (2002)）。本物質の蒸気をウサギに複数回ばく露した結果、回復性の結膜炎がみられたが回復性であったとの記載がある（CICAD 59 (2005)、ACGIH (7th, 2001)）。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

- ・製品に対する有用な情報なし
- ・減圧残留残査油については、モルモットに対する皮膚感作性試験において陰性であったとの報告がある。（鉱油の成分情報）^{a)}

生殖細胞変異原性

- ・製品に対する有用な情報なし
- ・In vivo では、アスファルトヒューム凝縮液を用いたラット骨髄の気管内注入小核試験で陽性、アスファルトヒューム又はアスファルトヒューム凝縮液を用いたラット骨髄、末梢血の吸入小核試験で陰性（以上、IARC 103 (2013)）、ラット及びマウスのトランスジェニック動物を用いた鼻部吸入ばく露による遺伝子突然変異試験で陰性（IARC 103 (2013)、CICAD 59 (2005)）、アスファルトヒューム、アスファルトヒューム凝縮液又はアスファルトペイントを用いた、ラット又はマウスの気管内注入、鼻部吸入ばく露又は経皮適用による DNA 損傷試験（DNA アダクト形成など）で陽性、陰性（IARC 103 (2013)、CICAD 59 (2005)、DFGOT vol. 17 (2002)）の報告がある。
- ・In vitro では、細菌の復帰突然変異試験で陽性、陰性の結果（IARC 103 (2013)、ACGIH

(7th, 2001)、CICAD 59 (2005)、DFGOT vol. 17 (2002))、哺乳類培養細胞の小核試験、染色体異常試験、DNA 損傷試験で、陽性、陰性の結果が報告されている (IARC 103 (2013)、ACGIH (7th, 2001)、CICAD 59 (2005)、DFGOT vol. 17 (2002))。以上より、陰性のデータもあるが、in vivo 体細胞変異原性試験の陽性結果が存在すること、in vivo 体細胞遺伝毒性試験の陽性結果が存在すること、並びに、in vitro 変異原性試験の陽性結果があること、さらに、本物質は変異原性があるとの記載 (ACGIH (7th, 2001)) を総合的に考慮し、区分 2 とした。

発がん性

- ・ EU CLP規則 (1272/2008/EA) 付属書VI Table 3. 1およびTable 3. 2に記載されていない。
(有害性として分類されない) (鉍油の成分情報)^{a)}
- ・ なおIARCは「アスファルト・エミッション」を「加熱され気化した物質および気体、および気体となったアスファルトが空气中で凝集し、小さな粒となり雲状になったヒューム」と規定し、「道路舗装」を「アスファルト混合物製造、運搬、舗設に関わる作業」、「職業ばく露」を「作業者が1日に 4 ~ 9時間程度を長期間にわたりさらされること」と規定している。
- ・ 一方、実験動物ではマウス、ラット、ハムスター等を用いた経皮適用、皮下又は筋肉内注射、及び吸入ばく露による多数の試験結果があるが、信頼性のある結果は少なく、本物質単独でなく、本物質と酸化処理したアスファルト (後述の酸化アスファルト) を両方含む”プールサンプル”の発がん性試験 (主に経皮経路) で、発がん性の限定的な証拠があり、結論として、道路舗装作業中に本物質、及び本物質ヒュームへの職業ばく露によるヒト発がん性をグループ2Bに分類した (IARC vol. 103 (2013))。この他、発がん性の既存分類結果としては、アスファルトヒューム (コールタールフリー) に対して、ACGIHはA4に分類している (ACGIH (7th, 2001))。以上、IARCによる最新の分類結果に基づき、本項は「区分2」とした。

生殖毒性

- ・ 製品に対する有用な情報なし

特定標的臓器・全身毒性－単回暴露

- ・ 黒ネズミに対し、3ヵ月毎に200 g g皮下注射を行ったが、解剖所見で皮膚腫瘍は見られなかった。
(鉍油の成分情報)^{a)}
- ・ アスファルトヒュームは気道刺激性がある (ACGIH (7th, 2001)、CICAD 59 (2005)) から、区分3 (気道刺激性) とした。

特定標的臓器・全身毒性－反復暴露

- ・ 製品に対する有用な情報なし
- ・ アスファルトヒュームの吸入試験 (マウス、6 ~ 7h/日、5日/週で21ヶ月) で気管浸潤、気管支炎、肺炎、膿瘍、繊毛損失、上皮萎縮及び皮膚肥厚が認められた。
(鉍油の成分情報)^{a)}
- ・ ヒトにおいて、ヒュームの吸入経路で鼻炎、口咽頭炎、喉頭炎、気管支炎、ヒュームの経皮暴露では皮膚炎、痤瘡 (にきび) 様の病変、軽度角化症が報告されている (ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol. 17 (2002))。

なお、実験動物において、マウスを用いた吸入毒性試験において呼吸器に影響がみられている (ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol. 17 (2002))。しかし、ばく露濃度の記載がなく、分類に用いることはできない。また、マウスを用いた82週間の経皮投与毒性試験において、2.5 mgを適用した例で表皮の過形成、真皮の炎症性浸潤・小膿瘍を伴う潰瘍、脾臓及び肝臓のアミロイド症の報告がある (ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol. 17 (2002))。しかし、1用量のみの試験であり、また、適用頻度が2回/週であったこ

とから分類に用いることはできないと判断した。

ヒトにおいて呼吸器系に影響がみられていることから区分1（呼吸器系）とした。

誤えん有害性

- ・製品に対する有用な情報なし

1.2. 環境影響情報

生態毒性

- ・製品に対する有用な情報なし

残留性・分解性

- ・製品に対する有用な情報なし
- ・残留性 アスファルトは常温で蒸発しないが、道路舗装や屋根防水等の工事のために加熱する際、ヒュームを発生する。発生したヒュームはすぐに凝縮、沈降して土壤に吸着する。ヒュームの揮発性成分は大気中のヒドロキシラジカルと反応する。水中では、アスファルトは分散性は乏しく、浮か沈むかである。土壤中では移動性はない。
- ・生分解性 アスファルトの水性環境における生分解性の研究例は見当たらない。しかし、数百年にわたって道路舗装に利用してきた経験からアスファルトは明らかにいつまでも持続できる物質であり、生分解性がないことが特長である。（鉱油の成分情報）^{a)}

生体蓄積性

- ・製品に対する有用な情報なし
- ・アスファルトの構成成分の log Know はすべて6以上なので生体蓄積性があると判定されるが、実際には極めて水に難溶であり、このような高分子量が水中生物の体内に取り込まれることは考えにくい。（鉱油の成分情報）^{a)}

土壤中の移動性

- ・製品に対する有用な情報なし
- ・土壤中では移動性はない。（鉱油の成分情報）^{a)}

1.3. 廃棄上の注意

- ・事業者は産業廃棄物（残余廃棄物、汚染容器及び包装）を自ら処理するか、又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。
- ・投棄禁止。
- ・焼却する場合は、安全な場所で、かつ、燃焼又は爆発によって他に危害又は損害を及ぼすおそれのない方法で行うと共に、見張り役をつけること。
- ・その他、関係法令の定めるところに従う。

1.4. 輸送上の注意

国際規制

- | | |
|--------|------------|
| 国連番号 | ・非該当 |
| 品名 | ・非該当 |
| 国連分類 | ・国連分類に該当せず |
| 容器等級 | ・非該当 |
| 海洋汚染物質 | ・非該当 |

国内規制

- ・火気、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。

陸上	労働安全衛生法	・通知対象物質（鉱油）
海上	船舶安全法	・非危険物
航空	航空法	・非危険物

安全対策

- ・該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・容器の破損、漏れのないことを確かめ、衝撃、転落、落下、容器破損のないよう積み込み、荷崩れ防止を確実にこなう。

15. 適用法令

労働安全衛生法 ・表示対象物質（通知対象物質）鉱油（第168号）、アスファルト（第11-3号）

16. その他の情報

参考資料

GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 - ラベル,作業場内の表示及び安全データシート (SDS) JIS Z 7253:2012
 製品評価技術基盤機構 (NITE)
 a) 安全データシート (原料メーカー)

記載内容の取扱い

- ・安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取扱う事業者へ提供されるものです。取扱う業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。
- ・すべての資料や文献を調査したわけではないため、情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをおすすめします。なお、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は通常的な取り扱いを対象としたものなので、特殊な取り扱いの場合には、この点にご配慮をお願いいたします。

記載内容の問い合わせ先

・担当部門	シンレキ工業株式会社 中央研究所
・住所	〒210-0867 神奈川県川崎市川崎区扇町6番2号
・電話番号	044-366-1617
・FAX番号	044-366-1618
・メールアドレス	kenkyu@shinreki.co.jp
・受付日時	月曜日～金曜日（祝祭日は休業） 8:30～17:30